

令和7年(2025年)3月5日(水)
長万部高等学校

第3回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年2月25日（火） 18:00～19:00

場 所：北海道長万部高等学校 芸術教室他

参加者：19名

運営委員11名

赤塚 顕爾 様、小野 雄二 様、亀田 純孝 様、岸上 尚生 様、小林 隆弘 様、
斉藤 和博 様、佐藤 望美 様、高野 陽子 様、辰巳 治典 様、中野 美貴 様
三浦 祐真 様

オブザーバー3名

近藤 英隆 様、柴野 貴史 様、附田 勇人 様

長万部高等学校5名

土屋 靖雅 校長、樋口 智一 教頭、沢瀬 久美子 教務部長、
松谷 良子 教務部副部長、沼田 優太郎 教諭（地域連携担当教諭）

全体会 18:00～18:35

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 学校概要について

- ・本校の現状

- 出願状況→普通科進学を選択肢が狭まる

- スクールミッションの見直し→学校の事実を知ってもらう

- 町の広報に掲載、折り込み

- 中高との連携

- ・次年度の取り組み

- T-base の活用

- キャリア教育の視点で中高連携、部活動の合同実施

- 理科大との連携

4 協議事項について

- 生徒募集を中心に協議

- 学校評価及び改善の方策について

5 諸連絡

- 地域連携部会と学力向上部会は合同で実施

6 閉会の言葉

7 部会

◎探究部会

- ・役場と連携し、進学費用だけではなく様々な経済的支援を講じる。進路実績を鑑みて、就職者にも経済的支援があると、より魅力的に感じてくれるのではないかな。
- ・長万部中学校からの進学者が減少している一因として、新しい人間関係作りが挙げられる。そのような傾向が他中学校でもあると考えられるため、現在行っている町外の中学校に対しての様々な働きかけを継続すべきである。
- ・保護者向け進学相談会を開き、進路や学校生活などどのような魅力があるのか、発信するのはどうだろうか。
- ・T-base の有効性をより発信していくべき。長万部高校に進学しても十分な進路支援を受けられる。
- ・黒松内中学校の多くは寿都高校などに流れてしまっている。経済的支援やスクールバスの配備など環境が整っている。
- ・オープンキャンパスをより充実させる。学校の雰囲気や生徒の生の声など、中学生が進学の決め手とするのがオープンキャンパスである。
- ・保護者への利点ではなく、子供への利点を考え、様々な策を講じるべきである。

◎地域連携・学力向上部会

- ・黒松内中の生徒は寿都、蘭越、小樽、札幌に出ている。
今の生徒はきちんと考えて進路を決めている。
- ・役場に長万部高校卒を作った。
- ・商工会にも募集枠がある。商工会は5年に1回、今金・八雲と人事交流している。
- ・地元に残りたいという子がいないのが現状。
- ・長万部中学校から半分は入学して欲しいが、現状5人のみ。
長万部高校にニーズがないのではないかなと思われる。
- ・学区外に出る人数を決めればいいのかではないかな。
- ・外に出る子も応援したい気持ちもある。黒松内も生徒数は多いが、長万部には来ていない。
伊達開来に行っても長万部高校を出るのと同じような進路になるのではないかな。
- ・新幹線関係で町に人が足りない状況。ハローワーク経由ではなく、就職先が簡単に募集をかけられるような仕組みができれば、町に残りやすくなるのではないかな。
- ・長中との連携だけではなく、黒中とも連携すればいいのかではないかな。
黒松内まで町がスクールバスを出すといいのかではないかな。